

河川工作物ワーキンググループ経過報告

1 河川工作物についての影響評価の基本的な考え方

知床世界自然遺産地域内に存在する44河川のうち、河川工作物が存在する14河川において、河川環境の調査を実施し、サケ科魚類の遡上・降下の阻害要因、産卵・生息環境を把握し、河川工作物に改良を加えた場合の防災面、環境面等への影響を踏まえて改良の必要性の是非を判定。

2 これまでの検討及び実施結果

(1) 河川工作物の影響評価

ア 平成17年度

イワウベツ川等6河川に設置されている56基のうち、54基（民間の2基を除いたもの）の河川工作物について、影響評価を実施。

イワウベツ川（6基）、ルシャ川（2基）、サシルイ川（2基）の10基について「改良の検討を行うことが適当」と評価。

イ 平成18年度

羅臼川等7河川に設置されている60基のうち、41基（羅臼川の18基（遺産登録以前から改修を進めているもの）と民間の1基を除いたもの）の影響評価を実施。

羅臼川（1基）、チェンベツ川（2基）の3基の河川工作物について「改良の検討を行うことが適当」と評価。

(参考)

平成17、18年度において、13河川に設置されている116基のうち、95基（羅臼川の18基、民間の3基を除いたもの）について影響評価を行った結果、「現状維持」と評価した河川工作物（82基）の内訳。

①河川工作物以外の要因（滝又はpH）が遡上、生息の阻害をしている。（22基）

②現状で十分に遡上可能である。（7基）

③河川工作物の上流に遡上・産卵・生息環境がない。（16基）

④工作物の改修等に伴う防災機能等への全体的な影響が大きい。（37基）

(2) 改良工法の検討（18年度のみ）

イワウベツ川（2基）、ルシャ川（2基）に設置されている「改良の検討を行うことが適当」と評価された4基の河川工作物の改良工法の検討。

(3) 改良の実施（18年度のみ）

イワウベツ川（1基）、ルシャ川（2基）の河川工作物の改良の実施。

3 平成19年度の予定

(1) 河川工作物の影響評価

ホンプタ川（評価対象14河川内の残り1河川）に設置されている河川工作物（7基）の影響評価。

(2) 改良工法の検討

イワウベツ川（5基）、羅臼川（1基）、サシルイ川（2基）、チエンベツ川（2基）に設置されている「改良の検討を行うことが適当」と評価された河川工作物の改良工法の検討。

(3) 改良の実施

イワウベツ川（2基）、サシルイ川（2基）の河川工作物の改良の実施。

(4) モニタリングの実施

平成18年度改良箇所（イワウベツ川（1基）、ルシャ川（2基））における改良効果検証のモニタリングの実施。

4 平成19年度WGのスケジュール

○第1回（9月11日・12日）

- ・平成18年度工作物改良箇所、平成19年度影響評価対象河川の現地検討
- ・改良工法の検討

○第2回（11月28日（予定））

- ・平成19年度影響評価対象河川の現地調査結果の報告
- ・平成19年度影響評価対象河川に影響評価の検討

○第3回（1月上旬頃）

- ・モニタリング調査結果の報告
- ・今後のモニタリング等の対応について
- ・WGとりまとめ